

今日の説教のポイント<使徒言行録 14 章 8～20 節>

①新しい展開はしばしば予期せぬ不本意なききっかけから始る！

パウロたちがリストラに行ったのはイコニオンで迫害され、難を逃れるためでした(6)。リストラにはユダヤ人のシナゴグもなく、これまで伝道して来た方法は取れず、最初から異教徒に向かわなければなりませんでした。しかしそこで事は起こり、回心した異教徒たちからなる教会ができたのです(21-22)。何が幸いするか分かりません。私たちの思いを越えた神様が常に共にいて下さることを思って、何があっても良きように変えられて行くことを信じて歩み続けるのが信仰者です。

②奇跡が起こったのだから信じなさいという話ではない！

パウロはペトロと同じように(3章)、生まれつき歩けない人を歩けるようにする奇跡を起こしました。それで人々は驚き、この後記されているような畏敬の念をパウロたちに持ちました。しかし、この話はこの奇跡の凄さを伝えようとしているものではありません。むしろ、それだけでは、パウロたちが願うこととは違う方向に人々は向かってしまったことを伝えようとしている話なのです。パウロたちが命をかけて伝えようとしたこと、それはイエス・キリストの福音です。この方によってご自身を示そうとされた真の神様に立ち帰ることが大事なのです(15)。奇跡が起こって一つ問題が解決しても、私たちには次々事は起こり来ますし、ついには死を迎えます。「どんな状況にあってもこの神様と共にあるから大丈夫、死もこのお方に委ねられる」、そう思えるお方をしっかり捉えることが、キリスト教信仰の一番大事なポイントです。

③世界を見て神様がおられることを信じなさいという話でもない！

人間は誰も大自然の不思議さに打たれて超越的な存在(神)を思うことがあります。パウロはそういうことから異教徒の人々に語りかけます。しかし、それで終わりではありません。それでは人間が考える神様のことを思う域を出ません。パウロは、次に、神様が人間にして下さったことに目を向けよと語り続けて行ったのです。つまり、神様が特別に啓示して下さった出来事、イエス・キリストによって神様がして下さった出来事にです。リストラに生まれた信仰者たちは、それによって、「私はこの神様と共に歩むのだ」と思える信仰に導かれたのです！